昭和36年、昭和天皇の行幸

夜の選炭場、石炭とボタを選別する

坑内より仕事を終えて人車から降りる

炭住街の夕方（池ノ平）

引き込み線と積込場

昭和35年10月、選炭、送炭の事務所前

炭住の子どもたち

くらし

炭鉱がもたらした活気ある暮らし

炭鉱での仕事には危険が伴いましたが、多くの人が仕事を求めて多久に移住。最盛期には約45,000人と、現在の倍以上の人口を数えたと記録されています。

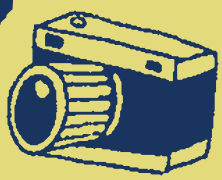
最盛期にかけて炭鉱従業員が住む長屋や住宅が数多く整えられ、さらには炭鉱会社が抱える病院を利用できたり無料で水道を使えたりと、福利厚生も充実。炭鉱を中心として町は繁栄していきました。

炭鉱従業員の文化スポーツ活動も盛んで、レクリエーション大会や運動会が開かれたほか、カメラクラブなどの愛好会も活発に行われました。また、図書室や映画館、テニスコート、プールなども備えた炭鉱も。今では炭鉱所有のグランド踏切」（南多久町）や炭鉱会社の名がそのまま残った「明治佐賀」（多久町）などの名前から、当時を垣間見ることができます。

約250年もの間、多久発展の核として栄えた炭鉱。閉山から50年のこの節目に、当時の多久に思いを馳せてみてはいかがでしょうか？

旧三菱古賀山炭鉱の竪坑やぐら

“炭鉱の思い出”大募集中！



多久市郷土資料館では、
令和５年１月20日㈮～４月２日㈰に企画展
「あの頃、多久に炭鉱があった～炭鉱閉山50年～」を開催します。

炭鉱があった頃の多久をより身近に感じていただけるよう、市民のみなさんがお持ちの素敵な思い出話や写真、映像（８mmフィルム）などを紹介予定。企画展ではお名前（匿名可能）と年齢のみを表示しますので、ぜひご応募ください！※応募多数の場合は展示できないことがあります

【応募期間】11月30日㈬まで
【内　　容】思い出のエピソード（400字～1,000字程度）、絵、写真、映像
【応募方法】郵送、メール、FAX、持ち込み
【応 募 先】多久市郷土資料館
〒846-0031 多久市多久町1975番地
Email：shiryoukan@city.taku.lg.jp　FAX：75-3002

問　多久市郷土資料館　☎75-3002